

PRESS INFORMATION  
2004.7.7

*Edix*

**HONDA**  
The Power of Dreams

本田技研工業株式会社 広報部  
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1

企業広報 TEL(03)5412-1512/FAX(03)5412-1545

商品広報 TEL(03)5412-1514/FAX(03)5412-1515

URL <http://www.honda.co.jp/>



## いままでにない、楽しいコミュニケーション空間へ。

子どもがまだ幼かった頃に、前列3人掛けベンチシートのクルマで、

親子3人ドライブに出かけたことがありました。

そのとき味わった家族の一体感は、わたしの記憶のなかにつよく残っています。  
それは同じ風景を同じ目線で楽しみ、スキンシップを交わしながら感動を共有できる、  
とてもしあわせなひとときでした。

このような一体感を生むフロント3席のクルマで、

時代に合わせた新しいかたちをつくれないうか、と考えたのが開発の始まりでした。  
そして、家族や友人、仲間など多人数がいっしょに楽しく移動できる喜びをさらに進め、  
乗る人が互いの関係によって自由にアレンジできる空間の創造をめざしたのです。

そのために、前列3人掛けにすることによる全幅の拡大や  
安全性などの課題をクリアするべく、独自の技術を注ぎました。

こうして生まれた「エディックス」は、乗る人同士がフレキシブルにポジションを変え、  
自由自在にコミュニケーションできる、まったく新しい6座独立の3×2ミニバンです。

わたしたちは、この空間のもたらす新しい価値が、  
多くの方々と共有できるものと確信しています。



開発責任者 角田 正明



角田 正明 (つのだ まさあき)

■ 1983年 (株)本田技術研究所入社  
■ 車体設計担当、98年USアコードボディ設計PL、99年欧州ロコPL代行を経て、  
商品技術戦略室にてプラットフォーム戦略を担当。今回、エディックスのLPLを務める。  
■ 趣味: ジョギング、釣り、ゴルフ  
■ 愛車: HR-V  
■ 家族構成: 4人家族 (妻、息子、娘)

### contents

- 2 開発にあたって
- 3 コンセプト
- 5 テクノロジー・ダイジェスト

### 3×2パッケージ

- 7 空間レイアウト
- 9 スペース&ユーティリティ

### 3×2デザイン

- 11 スタイリング
- 13 インテリア
- 15 先進装備

### 3×2ドライブ

- 16 パワートレイン
- 17 シャシー&ボディ

- 19 安全性能 / 環境性能
- 21 装備 / 諸元

スリーパイター

# 新しい感動共有空間、3×2ミニバンの創造。

Hondaは、日本のミニバン先駆者として、既成の価値にとらわれることなく、つねに自由な発想で提案をしつづけています。

そのさらなるチャレンジとして、

「家族や友人、仲間とこれまでにない移動の喜びを共有する」との視点から、乗る人同士の自由・多彩なコミュニケーション空間を創造しました。

それが、前3席、後3席の6座独立、センターシートがロングスライドする“3×2<スリーパイター>”ミニバンです。

全幅を抑えつつゆとりある横3人掛けや、

これまで難しかった子どもの前席乗車をかなえる安全性などを、

Honda独自のパッケージング技術、安全技術により具現化。

人数や互いの関係によって思い思いにポジションを変えられることで

風景や話題を共有化し、乗る人が気持ちを通わせ、

前後の一体感をも生みだせる、ミニバンの新しい形態をつくりあげました。

さらにユーティリティの自由度に加え、3×2ミニバンとしての価値をスタイリング、インテリア、走行性能でも徹底して追求しました。

「エディックス」が実現したのは、

## ■3×2パッケージ

乗る人同士が親密感やゆとりを思うままにつくれる、3席×2列=6座独立のパッケージ。

## ■3×2デザイン

ショート&ワイドスタンスをベースとする新しい塊感を洗練させたウェッジスタイリング。モダンで質感の高いインテリア。

## ■3×2ドライブ

ワイドトレッドを活かしたすぐれた操縦安定性と爽快な走り、しなやかな乗り心地。

共有体験を広げるなかから、人と人のより楽しく新鮮な関係づくりを求めた

3×2ミニバン「エディックス」。

乗る人それぞれが新たな価値を見だし、また喜びを感じていただけることをめざした、

Hondaならではの提案です。

## 3×2 パッケージ

乗る人同士が親密感やゆとりを思うままにつくれる、3席×2列=6座独立のパッケージ。

## 3×2 デザイン

ショート&ワイドスタンスをベースとする新しい塊感を洗練させたウェッジスタイリング。モダンで質感の高いインテリア。

## 3×2 ドライブ

ワイドトレッドを活かしたすぐれた操縦安定性と爽快な走り、しなやかな乗り心地。

## 【安全性能】

子どもの乗車も十分に考慮したフロントセンターシートをはじめ、高い安全性を追求。

## Edix

■ネーミングの由来

「Edix」とは、ひとりから6人まで楽しさを思い思いに編集(edit)することができる6(six)人乗りミニバン、という意味合いをこめたネーミングです。

## 【環境性能】

Honda独自の技術により、高水準のクリーン性能、低燃費を実現。

# 3×2ミニバン



# Edix 誕生

# パッケージを核に、デザイン、走行性能など、すべてに3×2ミニバンならではの新価値を追求。

## 3×2パッケージ

3席×2列=6座独立のパッケージが実現する、新しいコミュニケーション空間。

- ロングスライド機構付センターシートが生まだす、独創のV字シートレイアウト。
- フロントセンターシートを中心に、前後一体感のもてる空間。
- 1人から6人乗車まで、自由・多彩に楽しめる空間レイアウト。

広く、快適な空間と、高いユーティリティ。

- ひときわワイドなカッブルディスタンスと、ゆとりのタンデムディスタンス。
- 余裕のヘッドクリアランスとフラットフロアが生む、のびやかな空間。
- 6人乗車時でもたくさんの荷物が積める、439ℓ<sup>\*</sup>の大容量ラゲッジスペース。※VDA方式によるHonda測定値
- 自由・多彩なシートアレンジで広がるユーティリティ。
- クラストップレベルの最小回転半径4.9m。(17X、17X 4WD)

## 3×2デザイン

ショート&ワイドスタンスをベースとする新しい塊感を洗練させたウェッジスタイリング。

- 力強いクラウチングスタイルのサイドビュー。
- 存在感を主張する、アグレッシブなフロントビュー。
- ダイナミックスタンスを強調するリアビュー。

モダンで質感の高いインテリア。

- 室内のワイド感、ゆたかさを強調するインストルメントパネル。
- 深みのある加飾パネルをはじめ、細部まで上質な仕立て。
- 6座席すべて、快適さを追求した空調システム。

- ボディカラー7色×インテリアカラー3色から、自由な組み合わせを選べるカラーラインアップ。

## 3×2ドライブ

のびやかな走りと低燃費を生むパワートレイン。

- 全域でゆとりある出力特性の2.0ℓ DOHC i-VTECエンジン+5AT<sup>\*</sup>(20X)。※20X 4WDは4AT
- 爽快な走りと低燃費を両立する1.7ℓ VTEC エンジン+4AT (17X、17X 4WD)。

ワイドトレッドを活かしたすぐれた操縦安定性と爽快な走り、しなやかな乗り心地。

- リニアな操縦安定性と、乗り心地を徹底追求したシャシー性能。
- 軽量・高剛性ボディ。
- 楽しいコミュニケーションのための高い静粛性。

## 安全性能

子どもの乗車も十分に考慮したフロントセンターシートをはじめ、高い安全性を追求。

- フロントセンターシートにも高い安全性を確保。
  - 前席にISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー+テザーアンカーを採用(センターシート)。
  - フロントセンターシートまでカバーする大型サイズの助手席/前列中央席用SRSエアバッグシステム。
  - シート内蔵型3点式シートベルト。
- 3点式シートベルトを6座席すべてに採用。
- 前席用i-サイドエアバッグシステム、サイドカーテンエアバッグシステム。(セットでメーカーオプション)
- リアルワールドでの安全を追求。Gコントロール技術による高水準な安全性能。
- 歩行者傷害軽減ボディ。



## 環境性能

Honda独自の技術により、高水準のクリーン性能、低燃費を実現。

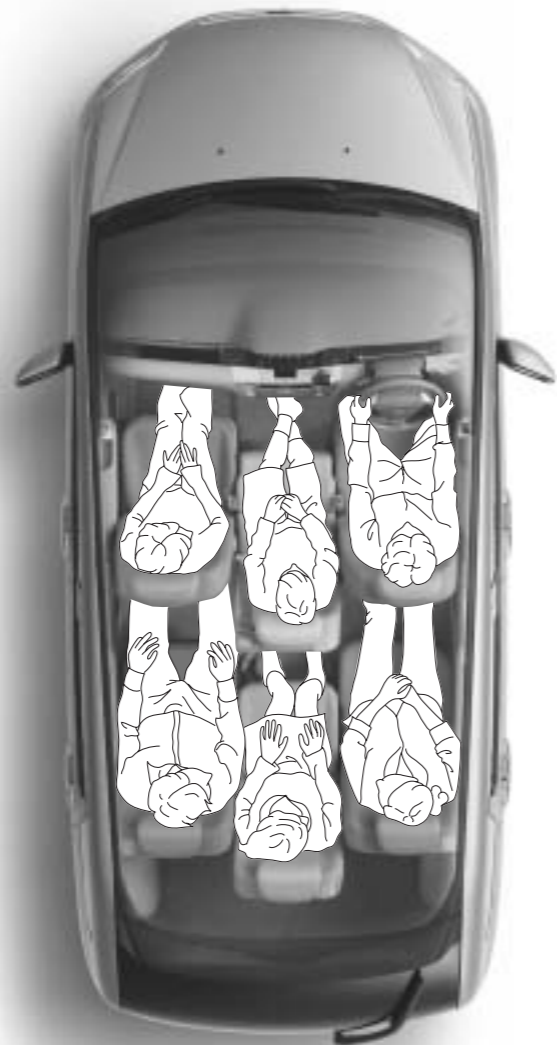
- 国土交通省「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定<sup>(20X)</sup>、「平成17年排出ガス基準50%低減レベル」認定<sup>(17X)</sup>をそれぞれ取得。
- 17Xは「平成22年度燃費基準+5%レベル」を達成。17X 4WD、20Xも「平成22年度燃費基準」に適合。
- リサイクル可能率90%以上を実現。
- 鉛レス化、脱六価クロム化など、環境負荷物質の低減を推進。





# 3席×2列=6座独立のパッケージが実現する、新しいコミュニケーション空間。

エディックス独創のパッケージは、3席×2列の6座を独立させ、前後のセンターシートにロングスライド機構をもたせるという発想により実現したものです。そこから、ゆとりある横3人掛けはもとより、1人から6人乗車まで、自由自在のコミュニケーションを広げるV字シートレイアウトを生みだしました。



## 1人から6人乗車まで、自由・多彩に楽しめる空間レイアウト。

### ■ 1人乗車

フロントセンターシートを倒し、大型のアームレストにすることで、開放感あふれる快適クルージングが楽しめます。

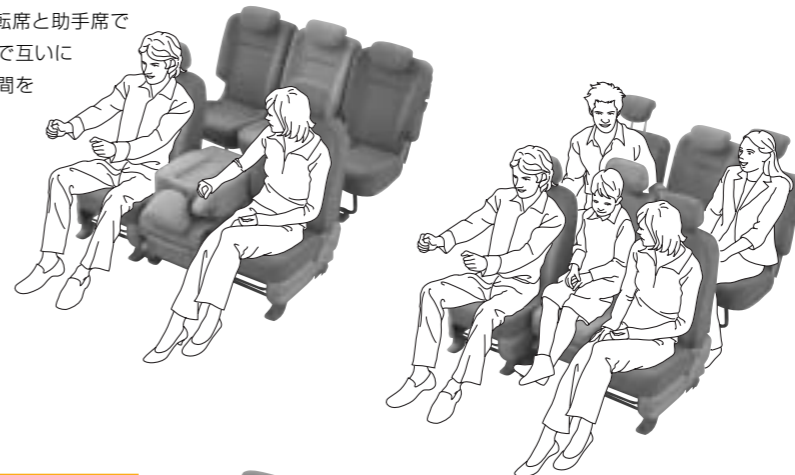


### ■ 4人乗車

4人がそれぞれ広いパーソナル空間にゆったり乗車。フロントセンターシートを倒せば、「会話の通り」の良い開放的な空間が生まれます。

### ■ 2人乗車

大型アームレストは、運転席と助手席で共有でき、これをはさんで互いののびやかなパーソナル空間を広げることができます。



### ■ 5人乗車

フロントセンターシートを囲んで、みんなの距離が一緒になり、親しみあふれる会話のはずみです。

### ■ 3人乗車

風景や会話を「川」の字になって共有。フロントセンターシートに子どもが座れば、親子の一体感を味わえます。



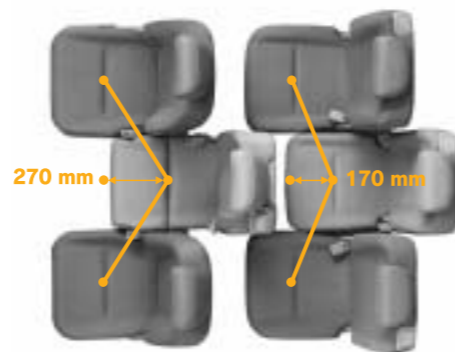
### ■ 6人乗車

前後のセンターシートをスライドさせ、6人みんなが近づいてひとつの話題を共有できます。

## ロングスライド機構付センターシートが生み出す、独創のV字シートレイアウト。

3席×2列—6座独立のパッケージの核となるのが、ロングスライド機構をもつ前後のセンターシートです。とくにフロントセンターシートは、子どもの乗車も十分に考慮して、万一の衝突時の安全性とドライバーの操作性への影響を徹底検証し、最前端の位置を運転席および助手席の最後端位置より10mm後ろに設定。そこからさらに後ろへ270mmという大きなスライド量をもたせました。これにより、センターシートを左右席より後ろに下げたV字シートレイアウトを実現。チャイルドシートを装着しての子ども乗車に対応するとともに、隣りの人と肩をすらしのゆとりある横3人掛けと、大人が座った際の余裕の足もとスペースを生みだしています。

\*数値はHonda測定値

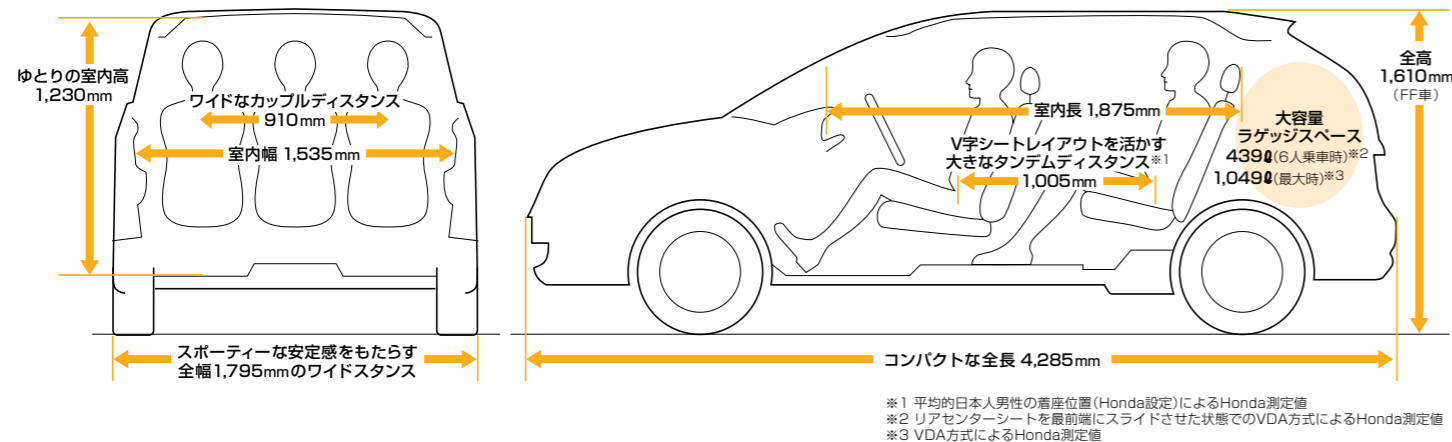


## フロントセンターシートを中心に、前後一体感のもてる空間。

フロントセンターシートは、後ろへロングスライドすることで、前席と後席をつなぐいわば1.5列目の役目も果たします。この席を中継することで、これまで隣り同士が主体であった車内のコミュニケーションを、前後で会話の交差する「3×2コミュニケーション」へと発展させることができます。

# 運転しやすいボディサイズのなかに、自由・多彩なレイアウトと居住性、ユーティリティを両立。

エディックスは、3×2のメリットを最大限に引きだし、ミニバンが本来有する広さやユーティリティの価値向上も追求。コンパクトな全長とゆとりの空間を両立し、高いユーティリティと自由度をもつパッケージを生みだしました。



## ひときわワイドなカップルディスタンスと、ゆとりのタンデムディスタンス。

3席×2列の空間を快適なものとするため、カップルディスタンス、タンデムディスタンスともに、外観からは想像できない大きな余裕をもたらせています。

### ■快適に着座できるシートサイズと形状。

運転席と助手席はシートフレーム幅をコンパクト化しながらも、座面幅やシートバックの高さ、シートクッションの長さは十分に確保。シート厚を多くとることにより着座フィールを高め、さらにシートクッションのサイドサポート角度の最適化と、インサート材の追加により十分なサイドサポート性をもたらせています。

## 余裕のヘッドクリアランスとフラットフロアが生む、のびやかな空間。

ワイドな室内空間を確保するために、ピラーを立てたことで、ヘッドクリアランスにも十分なゆとりをもたらせました。同時にアンダーフロアまわりのレイアウトに工夫を凝らしたフラットフロアにより、広い足もとスペースを確保するとともに、フロントセンターシートのロングスライドを実現しています。

## 6人乗車でもたくさんの荷物が積める、大容量ラゲッジスペース。

家族や仲間と移動する際にしっかり人数分の荷物が積めるように、コンパクトな全長でありながら大容量のラゲッジスペースを確保しました。6人乗車時ではクラストップレベル<sup>※1</sup>の439ℓ<sup>※2</sup>、前列に3人乗車の場合も最大1,049ℓ<sup>※3</sup>と極めてすぐれた積載性を実現しています。

※1 1.7 / 2.0 ミニバンクラス  
※2 リアセンターシートを最前端にスライドさせた状態でのVDA方式によるHonda測定値  
※3 VDA方式によるHonda測定値

## スマートな使い勝手。ユーティリティとしてもデザインされたフロントセンターシート。

フロントセンターシートは、シートバックを倒すと大型アームレスト、トレイになります。アームレスト部分には左右それぞれ約130mmの幅をもたせており、ゆったり肘を預けることができます。また、シート座面の前半分を反転させれば、トレイが2つ出現。さらに大容量のアンダーボックスも備えています。



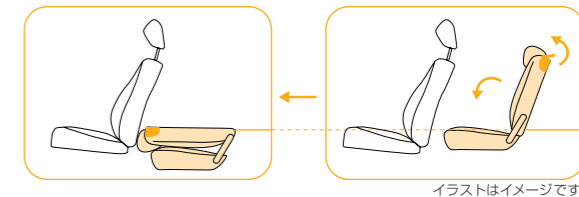
シートバック・大型アームレスト&トレイ

(上) インナーダブルトレイ  
(下) アンダーボックス

## ワンタッチで格納できる 3座独立ダイブダウン・リアシート。

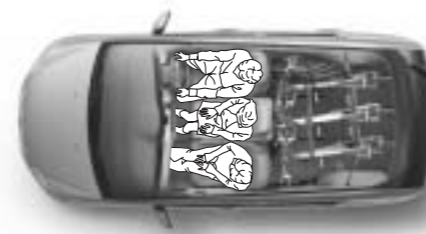
Honda独自のダイブダウン機構をリアシート3席すべてに装備しました。リア左右席はフロントシートを動かすことなく、肩口のレバーを引きながら倒すだけで格納。フラットで広びろとしたラゲッジスペースを簡単にアレンジすることができます。

※リアセンターシートをダイブダウンさせる場合は、フロントセンターシートを前にスライドさせる必要があります。その場合、フロントセンターシートにチャイルドシートを装着することはできません。



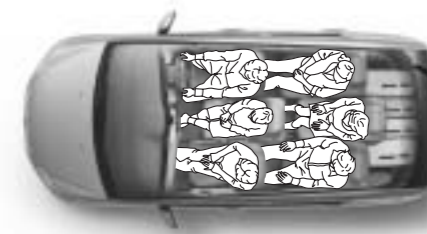
- 1 リアシートのヘッドレストを下げ、シート肩口にあるリクライニングレバーを引く。
- 2 そのままシートバックを前に倒すとシート全体が最前端までスライドし格納されます。

## 自由・多彩なシートアレンジで、広がるユーティリティ。



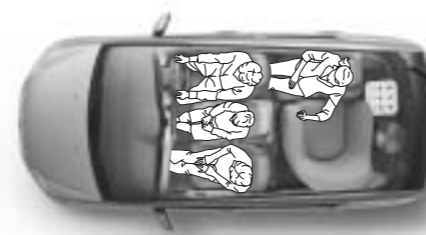
### ■サプライズスペース・モード

リアシートを使わずに3人乗ることができるため、3人乗車時でもリアシートをダイブダウンさせて、驚くほど広大な空間を実現。26インチのMTB 3台が積載可能です。



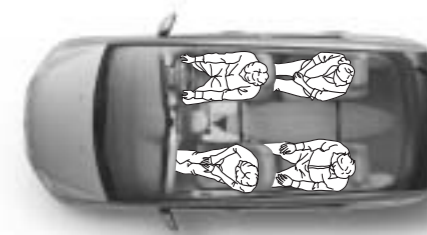
### ■ラゲッジ+6パーソン・モード

6人乗車時でもしっかり荷物が積める大容量ラゲッジスペースを確保しています。



### ■ラゲッジ+4パーソン・モード

3座独立ダイブダウン・リアシートの2席分を格納すれば、4人乗車しながらも広大な荷室に。



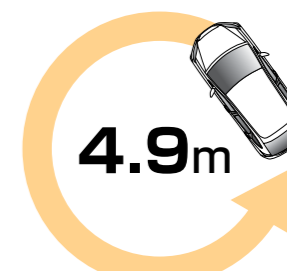
### ■ロング・モード

フロントセンターシートのシートバックを前に倒し、リアセンターシートをダイブダウンさせれば、4人乗車しながら長尺物の積載が可能です。

## クラストップレベルの最小回転半径4.9m\*を実現。

車庫入れ時などの取り回しを考慮し、全長はミニバンでありながら4,285mmと短く設定しました。この扱いやすいボディサイズとタイヤの大きな切れ角により、1.7ℓ / 2.0ℓ ミニバンクラストップレベルの最小回転半径4.9mを実現しています。

\*数値は17X、17X 4WD。メーカーオプションの16インチアルミホイール装着車および20X、20X 4WDは、5.2mとなります。





# ショート&ワイドスタンスの新しい塊感を洗練させた“3×2ミニバン”スタイル。

エディックスがエクステリアデザインのテーマとしたのは“スポーティー&ダイナミクス”。ショート&ワイドなディメンジョンを活かしながら、堂々とした存在感と美しい躍動感に充ちた、いままでにないミニバンの新しい造形をつくりあげました。



## 力強いクラウチングスタイルのサイドビュー。

サイドビューには、ショートスタンスならではの強いウェッジシェイプを与えました。大きく前傾したクラウチングスタイルと疾走するアスリートの筋肉を思わせる有機的な面構成により、Hondaらしい走りの躍動感を表現しています。



Photo : 20X メーカーオプション装着車

## ダイナミックスタンスを強調するリアビュー。

横基調のデザインでワイドスタンスの安定感を強調し、さらに斜めに切り落としたような造形のルーフエンドとサイドからつながるキャラクターラインを意図的にずらすことにより動きをつけ、安定感と軽快感を両立、リアビューに斬新な表情をもたせています。また、大きな曲率をもつリアガラスを採用し、良好な後方視界も確保しています。



Photo : 17X

## 存在感を主張する、アグレッシブなフロントビュー。

フロントバンパーの角を落とした立体感のあるデザインにより、ノーズを突き出しているかのようなインパクトの強いフェイスを実現しました。また、フロントグリルには面の押しだし感を強調するクロームメッキ・3本フィンソリッドなデザインを採用、精悍で上質な風貌をしっかりとアピールしています。



Photo : 20X メーカーオプション装着車

## 塊感を引き締めるシャープなディテール。

塊感のあるボディ形状を引き締めるため、ヘッドライトのサブフレクター、ドアハンドル、ドアミラー、リアコンビネーションランプなどは、一つひとつの角をシャープに尖らせ、エッジの効いた造形としています。



## ドアミラーウインカー

ドアミラーウインカーを採用。対向車からの被視認性を確保するとともに、スタイリングに上質感を与えています。



## 16インチアルミホイール

ボディの4隅にタイヤが配置されて見えるデザインにより、ワイドスタンスを強調。16インチアルミホイールは、アグレッシブな走りのイメージに充ちた、太く立体感ある5本スポークのデザインとしています。

(20X、20X 4WDに標準装備。17X、17X 4WDにメーカーオプション。)

## クロームメッキ・テールゲートガーニッシュ

フロントグリル同様クロームメッキをあしらい、リアビューをシャープな線で引き締めています。さらに外周を梨地とし、中心でシャープに光るメッキを際立たせています。

## 大きな曲率をもつリアガラスに対応する専用リアワイパーを開発。

ワイパーブレードが大きな曲率のガラス面にうまくたわみながら追従する構造とし、曲面ガラスでありながら高い拭き取り性能を確保しています。

# 楽しいコミュニケーションとくつろぎを包み込む、モダンで上質なインテリアを創造。

“モダン&ハイクオリティ”をテーマにデザインや機能が主張するのではなく、人間優先のインテリアを追求。そしてワイドな居住空間を強調する視覚的な工夫など、乗る人を満足させるゆたかさに充ちた空間に仕立てました。



Photo : 20X メーカーオプション装着車

## 室内のワイド感、ゆたかさを強調するインストルメントパネル。

インパネ下部全体を大胆に削ぎ落とすことで、すっきり広びろとした足もと空間を実現しています。特にセンターパネル下部は、人が座った状態で十分な広さを設定し、デザインや機能部品のレイアウトを工夫。また、視覚的な広さも追求し、インパネ上部をフローティング形状とし、奥行きを強調。同時に横基調の伸びやかなデザインで、ワイド感を際立たせています。

## 深みのある加飾パネルをはじめ、細部まで上質な仕立て。

光の具合で奥行きのある光沢を発する加飾パネルを、インパネ中央から左右へ広がりをもたせて配置。さらにシボの風合いと触感をいちだんと向上させるとともに、センターパネル部の徹底したフラッシュサーフェス化、助手席側のエアバッグ収納部分のシームレス化など、丁寧な仕上げを施しています。

## モダンチェアをイメージ。コミュニケーションのしやすさを求めたシート。

モダンな6つの椅子が置かれている部屋をイメージし、デザインしました。その際、コミュニケーションにも配慮。前席シートバックの肩口部分は、なだらかな形状とすることで圧迫感をなくし、前後の空間につながりをもたせ、視界や声の抜けを良くする空間演出を施しています。



Photo : 20X メーカーオプション装着車 カットボディによる合成写真

## 肌触りの良いスウェード調シートファブリック。

シート表皮には、美しいフォルムを強調するスウェード調ファブリックを採用。きめ細かなパイルを用いることで、ひときわしっとりとした肌触りの良さを生みだしています。また、最適な伸縮性を与えることで、着座フィールも向上させています。

## ■明るい「エスプレッソ」をはじめ、3色のインテリアカラー。

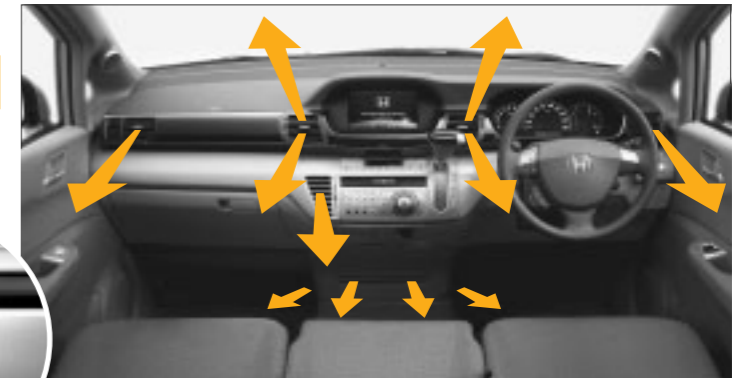
センターシートの色調を淡くして6座の独立感を強調したオレンジ系の「エスプレッソ」をはじめ、安心感のある「ウォームグレー」、スポーティーな「ブラック」の3色を設定。7色のボディカラーとの自由な組み合わせが楽しめます。

## 6座席すべて、快適さを追求した空調システム。

フロントセンターシート専用のエアアウトレットを、センターパネル左側と足もとに設置。また、フロントセンターシートによって後席への配風がさえぎられないよう、インパネセンター部の大型エアアウトレットとアッパーベンチレーションの2段構造を採用しました。アッパーベンチレーション部からの配風は前席を越えるように設定。ダイヤル操作で、前席と後席への配風量を調整することも可能で、前席3人着座時でも全席快適な空調性能を実現しています。



フロントセンターシート用エアアウトレット



空調システム配風イメージ

## 美しく見やすい自発光メーター。

美しいハイコントラスト表示を実現する自発光メーターを採用。20X、20X 4WDはホワイト色照明、17X、17X 4WDはオレンジ色照明としています。



## AM/FMチューナー付CDプレーヤー+4スピーカー

オーディオはセンターパネル中央にビルトイン。見やすい大型液晶ディスプレイを採用しています。また、20X、20X 4WDにはメーカーオプションとしてインダッシュ6連奏CDチェンジャー+AM/FMチューナー+6スピーカーを用意しています。

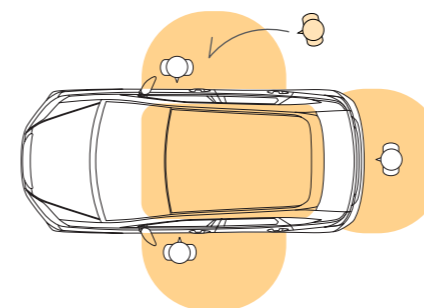


## Hondaスマートカードキーシステム (全タイプにメーカーオプション)

超薄型のカードキーを携帯していれば、ドアの旋錠/解錠やイグニション操作が可能。ドアハンドルを握るだけで解錠でき、クルマを降りドアを閉めて認証エリアから離れるだけで旋錠できます。イグニション操作は、通常のキー同様に操作可能。ID認証は電波を利用しているため、カードキーをカバンなどに入れたままでも作動します。また、イモビライザー機能を備え、車両の盗難防止にも配慮しています。

## ■Hondaスマートカードキーシステム認証エリア (イメージ)

認証エリアは運転席、助手席およびテールゲートの周辺。エンジン始動の際にはカードキーが車内にあることが条件です。



超薄型カードキー



イグニションスイッチノブ



## スムーズなドライブをサポートする、先進の情報機能に対応。

### リアカメラ付音声認識Honda・HDDナビゲーションシステム+プログレッシブコマンダー (全タイプにメーカーオプション)

最新のHDDナビゲーションシステムを採用。大画面8インチワイドディスプレイを組み合わせました。ハードディスクの大容量や高速処理性を活かし、画面表示やルート検索などナビゲーションとしての基本性能や多機能性を大幅に高めています。そのうえで、音声認識機能に加え、操作性を大きく進化させたプログレッシブコマンダーを採用。わかりやすい階層構造のメニューと合わせスピーディーな操作が可能です。

#### ■画面表示とリンクしたイメージどおりの操作が行なえる、プログレッシブコマンダー。

ジョイスティックとダイヤル式のコマンドホイールを組み合わせた、プログレッシブコマンダーを採用。複数の操作が1カ所で行なえるうえ、画面上も操作とリンクした表示とすることで、選択、決定、スクロールなど、イメージどおりの操作が可能です。そのため、モニターは運転中でも視線移動の少ない位置に、コマンダーは手を伸ばしやすい位置にレイアウト。また、現在地、目的地、メニューなど使用頻度の高い機能のスイッチをコマンダーの周囲に配置し、操作性をさらに高めています。



#### ■高精度で使いやすい音声認識機能。

ステアリングホイールの音声認識スイッチを押して、声に出して指示すれば、ナビゲーション機能に加え、オーディオやエアコンの操作が可能です。



#### ■充実したエンターテインメント機能。

好みの音楽CDから最大約800曲分(1曲6MBとして計算)をハードディスクに録音できるサウンドコンテナ機能をはじめ、DVDビデオ再生やスケジューラーなど多くの機能を備えています。

[ルート案内機能]	
ル ー ト 学 習	よく通るルート(自宅周辺など)を自動的に学習し、ルート計算に反映。
回 避 ル ー ト 設 定	通りたいエリアを登録することで、そのエリアを避けてルート案内。
渋滞回避自動ルート再計算	ルート上に渋滞が発生した場合に渋滞を回避するルートを自動再計算。
登 録 ル ー ト 設 定	通りたいルートを登録することで、必ずそこを通るルートを案内。
誘 導 条 件 設 定	あらかじめ登録地に「高速優先する/しない」などの条件を設定可能。
ランドマーク音声案内	ルート案内の目印となるランドマークを音声案内。

[画面表示機能]	
駐 車 場 マ ッ プ	全国約110カ所の地下駐車場、立体駐車場を収録。
都 市 高 速 マ ッ プ	首都高速道路などの都市高速道路で、状況に合わせてビューを自動切り替え。
ビジュアルランドマーク	主要なランドマークをリアルなグラフィックで表示。
空 表 現	朝、昼、夕方、夜といった時刻での変化に加え、ネットワーク経由で天気情報を取得し、雨、曇り、雪なども表現。
天 気 表 示	ネットワーク経由で日本全国の天気予報情報を取得し、地図上に表示。

### Honda独自のドライブサポートサービス「インターナビ・プレミアムクラブ」。

## internavi Premium Club

(入会金/年会費無料)

音声認識Honda・HDDナビゲーションシステムを装着することで利用できる、Honda独自の双方向型ドライブサポートサービス。ナビゲーションシステムとお手持ちの携帯電話※1との接続により、全国の最新道路交通情報ははじめ利用者個人のリクエストに応じたさまざまな情報の入手が可能です。ドライブを、そしてカーライフをよりいっそう快適にサポートします。(携帯電話の通信料はお客様のご負担となります。)

※1 情報を取得するにはNTT DoCoMo、ボーダフォン、au、ツーカーの携帯電話が必要です。一部の機種ではサービスをご利用にならない場合があります。

※2 自動車メーカーとして、世界で初めて実用化。

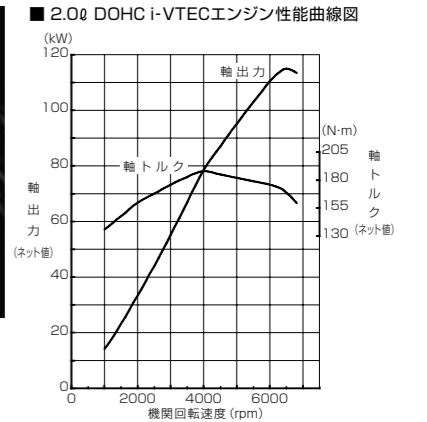
■VICISは財団法人道路交通情報通信システムセンターの登録商標です。

インターナビVICIS	VICISセンターから収集した全国の道路交通情報をインターナビ情報センターから入手でき、都道府県をまたぐ場合でも目的地方の最新情報を入手でき、最短時間で到着可能なルートを案内します。
プレミアムメンバーズVICIS(世界初※2)	VICIS情報未提供の道路でもインターナビ情報センターが独自に設定した道路区間であれば、メンバーのクルマから走行所要時間情報をアップデートし、その付近を走行するメンバー間で最新の道路交通情報を共有。経路誘導に反映させます。
【駐車場セレクト】	クルマのサイズを自動認識した上で、駐車料金、営業時間など希望条件に合う駐車場のみを案内。
【渋滞予測情報】(世界初※2)	蓄積された渋滞データにもとづき、交通状況の変化を予測した最短時間ルートを案内。
地 図 デ ー タ 更 新	24カ月点検時に、ハードディスク地図情報を無償でアップデートします。
カーナビ向け情報	ニュースや天気、ドライブスポット情報など、豊富なコンテンツが利用可能です。
音声案内/読み上げ	ナビゲーションのハンズフリー通話機能に加え、お気に入りのコンテンツなど、音声での呼び出し、読み上げが可能です。
メ ー ル 送 受 信	メール交換が可能。音声で新着メールのチェックもできます。
パーソナル・ホームページ	パソコンや携帯電話に個人専用ホームページを提供します。
愛車メンテナンス情報	オイル交換などのメンテナンス時期、任意保険の更新時期などお知らせします。
Q Q コ ー ル	Hondaネットワークによる安心のカスタマーケア・サービス。(有料サービス/別途申し込みが必要)

## 6人乗車時も、街なかから高速クルージングまでパワフルでのびやかな走りを実現。

### 全域でゆとりある出力特性の2.0ℓ DOHC i-VTECエンジン。(20X、20X 4WD)

「VTEC(可変バルブタイミング・リフト機構)」「VTC(連続可変バルブタイミング・コントロール機構)」に全域で最適な吸気慣性効果が得られる可変管長インテークマニホールドを加え、低・中速回転域での力強いトルクと高速回転域でのパワーを実現。6人乗車時でも、発進から全域にわたり爽快な走りが楽しめます。20Xにおいては、国土交通省「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定も取得。同時に「平成22年度燃費基準」にも適合しています。

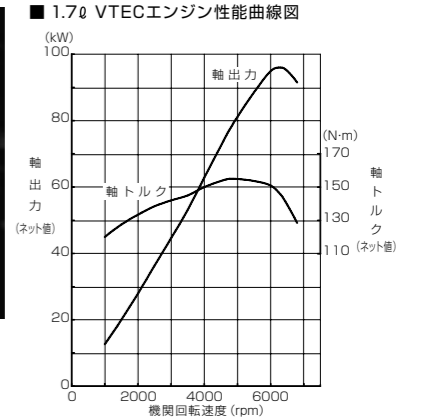


#### ■2.0ℓ DOHC i-VTECエンジン

最高出力(ネット値)	115kW [156PS]/6,500rpm
最大トルク(ネット値)	188N・m [19.2kg・m]/4,000rpm
10・15モード走行燃料消費率(国土交通省審査値)	13.0km/ℓ (20X) 12.2km/ℓ (20X 4WD)

### 爽快な走り。燃費・クリーン性にもすぐれる、1.7ℓ VTECエンジン。(17X、17X 4WD)

低・中速トルクを磨く管長の長い吸気システムなどを採用。さまざまなシーンで爽快・スムーズな走りが楽しめ、燃費やクリーン性も高水準。17Xは、国土交通省「平成17年排出ガス基準50%低減レベル」認定を取得。「平成22年度燃費基準+5%レベル」の低燃費も達成しています。17X 4WDも「平成22年度燃費基準」に適合しています。



#### ■1.7ℓ VTECエンジン

最高出力(ネット値)	96kW [130PS]/6,300rpm
最大トルク(ネット値)	155N・m [15.8kg・m]/4,800rpm
10・15モード走行燃料消費率(国土交通省審査値)	13.8km/ℓ (17X) 13.2km/ℓ (17X 4WD)

### スムーズな加速と静粛性、低燃費を実現する5速オートマチック・トランスミッション。(20X)

20Xは5速ATとし、i-VTECエンジンのパフォーマンスを存分に引き出す走り、低燃費、静粛性の高次元バランスを実現しています。また、ATのコンピューターで、走行状態、ロックアップの作動状態、エンジンの運転状態、エアコンの状態をモニターし、減速時には一時クーラーのコンプレッサを停止して燃料をカット。真夏などのクールダウン中は空調を優先、クールダウン後は燃料カットを優先することで、空調性能と低燃費を両立しています。

### ■トルクフルな走りと燃費向上をもたらす4速オートマチックトランスミッション。(20X 4WD、17X、17X 4WD)

●エディックスは全タイプ、登降坂路などで適切な制御を行ない、人の気持ちに近い走りをもたらすプロスマテックや、燃費特性を高めるアクティブ・ロックアップシステムを採用しています。

### 軽快で低燃費なリアルタイム4WD。(20X 4WD、17X 4WD)

軽量・コンパクトなデュアルポンプシステムを採用し、滑りやすい路面や坂道での十分な発進・加速性能を確保。同時に、低燃費を両立しています。

# ワイドトレッドを活かし、すぐれた操縦安定性と しなやかな乗り心地を実現。

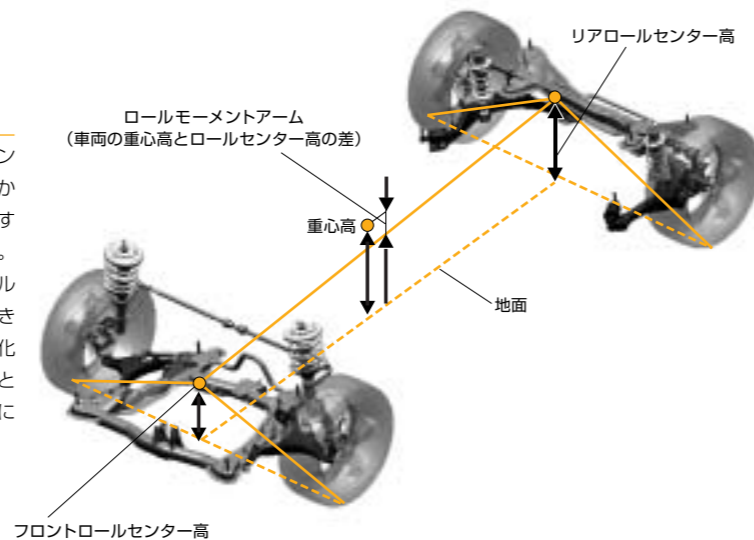
ロール方向の姿勢変化に対して有利で、しなやかな乗り心地も実現しやすいワイドトレッドなディメンションを活かし、シャシー、サスペンションのベストバランスを追求。さらにボディの高剛性化や静粛性の向上に取り組みました。

## ワイドトレッドを活かし、高次元のシャシー性能を追求。

空間効率にすぐれるトーコントロールリンク・ストラットサスペンションをフロントに、制動時の車体安定性の高いリアアクティブリンク・ダブルウィッシュボーンサスペンションをリアに採用。操縦安定性、しなやかな乗り心地、リニアな応答性などを高いレベルで達成するために、ワイドトレッドの優位性を最大限に活かすサスペンションセッティングを施しました。

### 操縦安定性としなやかな乗り心地を高次元で実現する、 ロールセンター高の適正化。

ワイドトレッドでオーバーハングも短いエディックスのディメンションは、ロール方向に対して安定感があり、通常より低バネ化してしなやかな乗り心地をもたせることができます。この優位性を最大限に活かすため、重心高に合わせ前後のロールセンター高の適正化を徹底追求。その際、ロールセンター高を上げると車両の重心高に近づきロール低減につながる一方、上げすぎると今度はジャッキアップ現象が起きやすいことを考慮し、ベストバランス位置を設定。旋回時の姿勢変化を抑制し、つねに前下がりのロール姿勢を保つことで操縦安定性と低・中速域での回頭性を向上させるとともに、さらなる低バネ化により、乗り心地を高めています。



### トーコントロールリンク・ストラット フロントサスペンション

サイズアップにより剛性を高めたスタビライザーを採用するなど、操縦安定性を高めています。



### リアアクティブリンク・ダブルウィッシュボーン リアサスペンション

大型のコンプライアンスブッシュを加え、しなやかな乗り心地を実現しています。20Xでは、リアにもスタビライザーを採用しています。



## クラストップレベル\*のブレーキ性能。

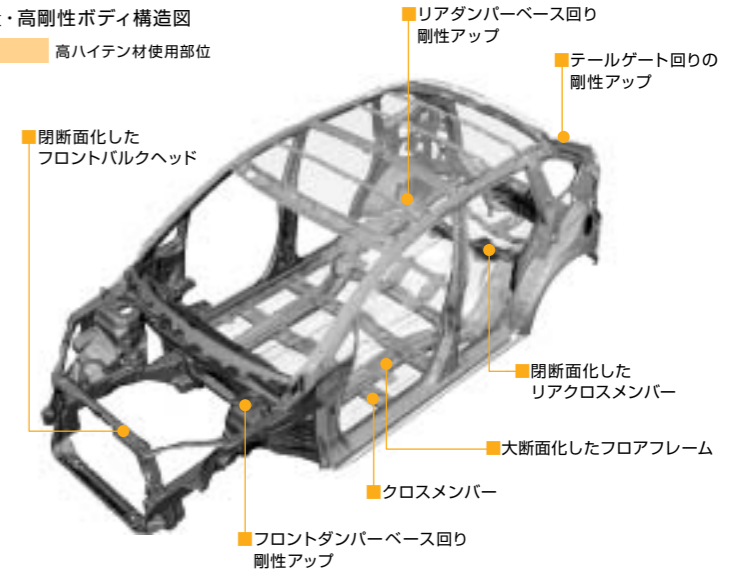
フロントにベンチレーテッドディスクブレーキ、リアもディスクブレーキ（17Xは油圧式リーディング・トレーリング）としました。そして車両の姿勢変化が少なく、リアの荷重が抜けにくい利点を最大限に活かし、ドライ/ウェットいずれの路面でもクラストップレベル\*の制動性能を達成しています。

\*1.7/2.0 ミニバンクラス。Honda社内テスト値。

## 操縦安定性と乗り心地を両立する軽量・高剛性ボディ。

より高い剛性を確保するために、大断面フロアフレームを備えた井桁構造を新設計。加えて、フロントバルクヘッドおよびリアクロスメンバーの閉断面化やサスペンション取り付けポイント、テールゲート回りなど、細部まで剛性アップをはかっています。とくにリア回りの剛性を高めたことで、しっかりとした乗り味やロードノイズの低減に寄与しています。その一方で軽量化もはかり、高張力鋼板（ハイテン材）の適用を拡大。なかでも、より強度にすぐれる高ハイテン材の使用比率を高め、従来の鋼板で製造した場合との比較計算では、約30kgの軽量化を生んでいます。

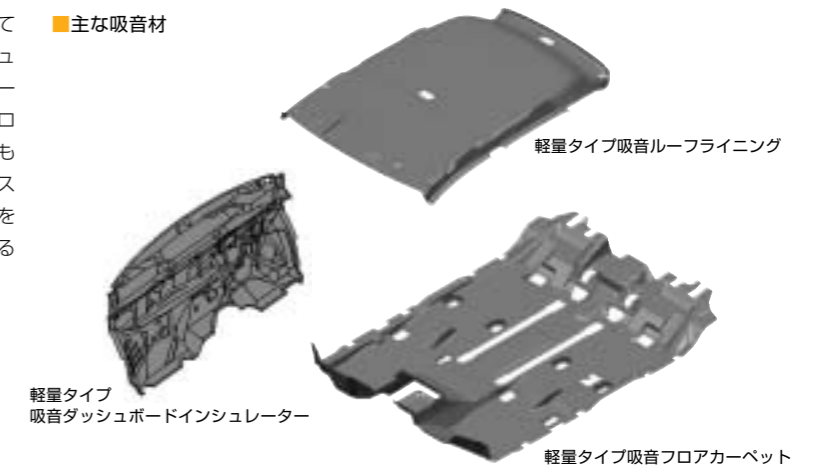
### 軽量・高剛性ボディ構造図



## 楽しいコミュニケーションのために静粛性を追求。

新たなコミュニケーション空間づくりに不可欠な静粛性を徹底追求しました。こもり音とアイドリング振動に対しては、ボディ骨格の部材の強化により低減。さらにダッシュボード、フロア、ルーフには、軽量タイプのインシュレーターを採用し、高い吸音効果を生みだしています。加えてクロスビームとボディの剛性アップにより、ロードノイズも低減しています。2.0L車においては、2.0Lミニバンクラストップの遮音性能をめざし、エンジンマウントや防音材を最適化。走りだしのエンジン音、タイヤノイズのさらなる低減をはかっています。

### 主な吸音材





# 子どもの乗車も十分に考慮したフロントセンターシートをはじめ、高い安全性を追求。

3×2のパッケージを成立させるにあたって、高い安全性の確保が前提となったことはいうまでもありません。フロントセンターシートに子どもを着座させられること。すべての席に大きな安心をもたらすこと。Honda独自の基準をもって、すぐれた安全性能を実現しました。

## フロントセンターシートにも高い安全性を確保。

■最適なシート位置とスライド設定により、チャイルドシート<sup>※1</sup>の装着も可能に。

事故統計などから、子どもの着座は、前席より後席の方が安全であると言われています。助手席用エアバッグが膨らむ際に接触して傷害を受ける可能性も考えられるため、Hondaでは「お子さまは後席に」が基本スタンスです。ただしエディックスの場合は、V字シートレイアウトによりインパネおよび展開時のエアバッグとの距離を十分に確保。後席に近い環境をつくりだしたことで、フロントセンターシートへの学童用(ジュニア)シート<sup>※2</sup>およびスライド最後端位置での幼児用(チャイルド)シート<sup>※1</sup>の前向き装着を可能としています。



チャイルドシート 適用表	乳児用(ベビー)シート		幼児用(チャイルド)シート		学童用(ジュニア)シート
	前向き	後向き	前向き	後向き	
前助手席	×	×	×	×	○ <sup>※3</sup>
前中央席	×	×	○ <sup>※1</sup>	×	○
後席	○	○	○	○	○

適用の目安 ●乳児用シート<sup>※4</sup>＝体重：～9kg/参考身長：～70cm/参考年齢：～9カ月 ●幼児用シート＝体重：9～18kg/参考身長：70～100cm/参考年齢：9カ月～4才 ●学童用シート＝体重：15～32kg/参考身長：100～135cm/参考年齢：4～10才  
<sup>※1</sup> 乳児用シートを除く。幅460mm以内の幼児用シートが前向きで使用可能。リアセンターシートを後ろにスライドさせ、フロントセンターシートを最後端までスライドさせた状態でのみ装着可能。  
<sup>※2</sup> 幅460mm以内の学童用シートが使用可能。  
<sup>※3</sup> 助手席への学童の乗車は、やむを得ない場合に限ります。  
<sup>※4</sup> 数値はISO FIXテザータイプの場合。

■フロントセンターシートにISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー+テザーアンカーを採用。

チャイルドシートを確実・容易に取り付けられるISO FIX対応の固定専用バーと、チャイルドシートを固定するためのテザーアンカーをリア左右席に加え、フロントセンターシートにも採用しました。

■シート内蔵型3点式ロードリミッター付プリテンショナーELRシートベルトを新開発。

フロントセンターシートのロングスライドを考慮し、シートベルトはシート内蔵型とし、プリテンショナー、ALR(チャイルドシート固定機構)を装備しました。シートおよびシート取り付け部の強度も高めています。



■頸部衝撃緩和フロントシートを採用。

■フロントセンターシートまでカバーする大型の助手席/前中央席用SRSエアバッグシステム。



写真は機能説明のため、運転席用&助手席/前中央席用SRSエアバッグシステム、前席用i-サイドエアバッグシステム、サイドカーテンエアバッグシステムともに展開した状態を合成したエアバッグシステム作動イメージです。

## 3点式シートベルトを6座席すべてに採用。

運転席は、ショルダー側のプリテンショナーに加え腰ベルト外側にもプリテンショナーを採用。乗員の拘束効果をいっそう高めることにより、傷害の軽減をめざしました。

■運転席シートベルト作動イメージ(図)



## リアルワールドでの安全を追求。

■独自のGコントロール技術。

Hondaは衝突安全において、乗員に対する「傷害値の低減」が課題となる前面フルラップ衝突と、「生存空間の確保」が課題となる前面オフセット衝突の双方を高水準でクリアすることをめざし、独自のGコントロール技術で対応しています。エディックスは、世界トップレベルの前面フルラップ衝突55km/h、前面オフセット衝突64km/hに対応する衝突安全設計ポディとしています。もちろん側面55km/h、後面50km/hの衝突にも対応しています。

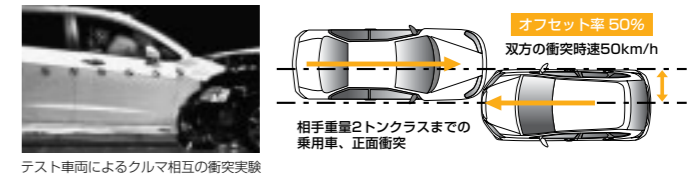
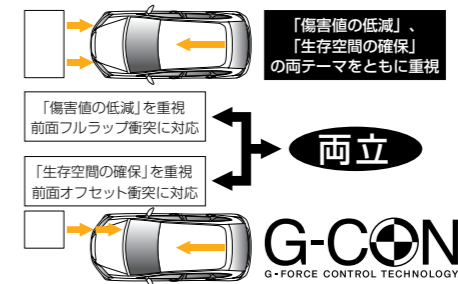
## 前席用 i-サイドエアバッグシステム/サイドカーテンエアバッグシステム (全タイプにセットでメーカーオプション)



写真は機能説明のため、運転席用&助手席/前中央席用SRSエアバッグシステム、前席用i-サイドエアバッグシステム、サイドカーテンエアバッグシステムともに展開した状態を合成したエアバッグシステム作動イメージです。

■独自の目標を設定したCAR to CAR衝突実験を実施。

Hondaは、リアルワールドの衝突安全研究を推進するために、クルマ相互の衝突実験を実施しています。事故統計の分析から、「相手重量2トクラスまでの乗用車、双方の衝突速度50km/h、50%前面オフセットの衝突」という独自の研究目標を設定。エディックスは、高効率なエネルギー吸収&高強度ボディ構造によりクリアしています。



テスト車両によるクルマ相互の衝突実験

■衝撃吸収構造を採用した、歩行者傷害軽減ボディ。

Hondaは歩行者衝突時の傷害軽減をめざし、歩行者傷害軽減ボディを採用。ダメージを最も受けやすい頭部はもちろん、脚部にまで傷害軽減部位を拡大しています。

- 衝撃吸収ワイパーピボット  
ピボット軸(旋回軸)を変形しやすい構造とすることで、万一の衝突時に衝撃を吸収します。
- 衝撃吸収ボンネット  
エンジンなどとボンネットフードの間に空間を確保し、衝撃を吸収する構造としています。
- 衝撃吸収フェンダー  
フェンダー上端部を変形しやすい構造とすることで、万一の衝突時に衝撃を吸収します。
- 衝撃吸収バンパー  
バンパーフェイスとビームの間に空間を確保し、衝撃を吸収する構造としています。
- ボンネットヒンジ部衝撃吸収構造  
ボンネットの取り付けヒンジ部を変形しやすい構造とし、万一の衝突時に衝撃を吸収します。



# Honda独自の技術により、高水準のクリーン性能、低燃費を実現。



すべての製品の生産から廃棄まで、さらにHondaがかかわる全活動に高い環境意識と独自の視点が生み出す技術、それがHondaのエコロジー・コンシャス・テクノロジー、e-TECH(イーテック)です。

## 国土交通省「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定を取得。(20X)

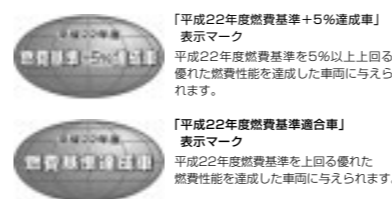
高精度な空燃比制御などによる高効率な燃焼に加え、大型キャタライザーも採用し、全タイプで国土交通省「平成17年排出ガス規制」に適合。さらに20Xは「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定を、17Xは「平成17年排出ガス基準50%低減レベル」認定を取得しています。



「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定車表示マーク  
平成17年排出規制のNMHC、NOxについて基準値を75%以上下回る優秀な環境性能を達成した車両に与えられます。  
 「平成17年排出ガス基準50%低減レベル」認定車表示マーク  
平成17年排出規制のNMHC、NOxについて基準値を50%以上下回る優秀な環境性能を達成した車両に与えられます。

## きめ細かな制御により低燃費化。

バルブ制御や点火時期の最適化など高効率な燃焼技術によって、エンジン単体での低燃費を実現。トランスミッションのきめ細かな制御による伝達効率の向上、軽量化などを加え、17Xは「平成22年度燃費基準+5%レベル」を達成。17X 4WD、20Xは「平成22年度燃費基準」に適合しています。



「平成22年度燃費基準+5%達成車」表示マーク  
平成22年度燃費基準を5%以上上回る優れた燃費性能を達成した車両に与えられます。  
 「平成22年度燃費基準適合車」表示マーク  
平成22年度燃費基準を上回る優れた燃費性能を達成した車両に与えられます。

## リサイクル可能率90%以上を実現。

内・外装樹脂部品のほとんどをリサイクル性にすぐれたオレフィン系樹脂材とするとともに、リサイクルの難しいPVC(ポリ塩化ビニール)の使用削減などを推進し、クルマ全体のリサイクル可能率を90%以上<sup>\*</sup>としています。

<sup>\*</sup>Honda独自の算出基準による

## 環境負荷物質の低減を推進。

電着塗装やホイールバランスウエイトなどで鉛を廃止し、クルマ全体での鉛の使用量を1996年レベルの1/10以下<sup>※1</sup>に削減しました。また六価クロムについても、使用全廃<sup>※2</sup>をめざしてフューエルフィルターパイプやブラケットなどでメッキコーティング剤における使用を廃止しています。

<sup>※1</sup> 経済産業省「リサイクルニアシアチブ」による業界目標は、鉛の使用量を2006年1月以降1996年レベルの1/10以下に削減することをめざすものです。  
<sup>※2</sup> 日本自動車工業会による自主規制目標は、六価クロムの使用について2008年1月全廃をめざすものです。



主要装備

● は標準装備 ○ はメーカーオプション(ご注文時にお申し付けください。)

タイプ	17X / 17X 4WD	20X / 20X 4WD	その他の全タイプ標準装備
運転席用&助手席/前列中央席用SRSエアバッグシステム	●	●	●リア3点式ELR/ALR(チャイルドシート固定機構)シートベルト
前席用i-サイドエアバッグシステム(助手席乗員姿勢検知機能付)	○※1	○※1	●フロントアジャスタブルシートベルトショルダーアンカー(左右席)
サイドカーテンエアバッグシステム	○※1	○※1	●運転席シートベルト締め忘れ警告ブザー&警告灯(シートベルトリマインダー付)
頸部衝撃緩和フロントシート	●	●	●フットパーキングブレーキ
フロント3点式ロードリミッター付プリテンショナー-ELRシートベルト(中央席はシート内蔵/ALR(チャイルドシート固定機構)付)	●	●	●室内難燃材
EBD(電子制御制動力配分システム)付ABS+ブレーキアシスト	●	●	●ドアビーム
ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー(フロント中央席、リア左右席)+テザーアンカー(フロント中央席、リア左右席)	●	●	●チャイルドブルーフ
ディスプレイヘッドライト(HID)(ハイ/ロービーム)	○	○	●ハイマウント・ストップランプ
リアカメラ付音声認識Honda・HDDナビゲーションシステム+プログレスナビコマンダー(8インチワイドディスプレイ、TV/AM/FMチューナー付DVD/CDプレーヤー+6スピーカー(インターナビ・プレミアムクラブ対応))	○※2※3※4	○※2※3※4	●パワーステアリング(チルト機構付)
インダッシュ6連奏CDチェンジャー+AM/FMチューナー+6スピーカー(AUX(オーディオ外部入力)端子付)		○※2※3	●パワーウィンドウ(運転席挟み込み防止機構付)
AM/FMチューナー付CDプレーヤー+4スピーカー	●	●	●パワードアロック(テールゲート連動)
オーディオレス仕様(4スピーカー装備)	○	○	●エコランプ
オーディオリモートコントロールスイッチ	○※3	○※3	●液晶ツイントリップメーター(航続距離/外気温表示機能付)
Hondaスマートカードキーシステム	○※5	○※6	●パワーステアリング(チルト機構付)
イモビライザー	○	●	●パワーウィンドウスイッチ照明(運転席)
電波式キーレスエントリーシステム(ウエルカムランプ機能/アンサーバック機能付)	●	●	●燃料残量警告灯
オートエアコンディショナー(エアクリンフィルター付)	●	●	●イグニッションキー抜き忘れ警告ブザー
フロントセンターシート(ロングスライド機構付)	●	●	●ライト消し忘れ警告ブザー
フロントセンターシートバック・大型アームレスト&トレイ	●	●	●パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー
フロントセンターシート・アンダーボックス	●	●	●アッパーベンチレーション
フロントセンターシート・インナーダブトレイ	●	●	●リアヒーターダクト
3座独立リアシート(ダイブダウン機構/リクライニング機構/中央席ロングスライド機構付)	●	●	●フロントカップホルダー(運転席用/中央席用/助手席用)
運転席ハイトアジャスター	●	●	●イルミネーションコントロール
自発光メーター	●オレンジ色照明	●ホワイト色照明	●タコメーター ●フロントマップランプ
フロントセンターシート用フットレスト/サンバイザー/エアアウトレット/ヒーターダクト	●	●	●ドライバーズポケット
センターポケット	●	●	●チケットホルダー ●シガーライター
シルバー調インナードアハンドル&ドアスイッチパネル		●※7	●フロント灰皿 ●フットレスト(運転席)
パニティミラー付サンバイザー	●運転席側	●運転席側&助手席側	●全席ヘッドレスト
ドアミラーウインカー	●	●	●助手席シートバックポケット ●フロントドアポケット
雨滴検知ワイパー			●リアドアポケット&ボトルホルダー ●グラブレール
親水/ヒートドドアミラー	○※8	○※8	●ラゲッジルームランプ
フロントドア撥水ガラス			
プライバシーガラス(リアドア/リアクォーター/テールゲート)	●	●	
スチールラジアルタイヤ	195/65R15 91H	205/55R16 89V	●フロントスタビライザー
スチールホイール+フルホイールキャップ	●		●フロントベンチレーテッドディスクブレーキ
16インチアルミホイール	○※9	●	
ホイールサイズ	15X6JJ	16X6 1/2 JJ	
リアスタビライザー		●(20X)	
リアディスクブレーキ	●(17X 4WD)	●	

※1:[前席用i-サイドエアバッグシステム]と[サイドカーテンエアバッグシステム]はセットでメーカーオプションとなります。  
 ※2:[Honda・HDDナビゲーションシステム]「インダッシュ6連奏CDチェンジャー」[AM/FMチューナー付CDプレーヤー]それぞれの同時装着はできません。  
 ※3:[Honda・HDDナビゲーションシステム]または「インダッシュ6連奏CDチェンジャー」を装着した場合、「オーディオリモートコントロールスイッチ」もあわせて装着されます。  
 ※4:[Honda・HDDナビゲーションシステム]を装着した場合、「センターポケット」は装着されません。  
 ※5:[Hondaスマートカードキーシステム]と「イモビライザー」のセットでメーカーオプションとなります。  
 ※6:[ディスプレイヘッドライト]または「雨滴検知ワイパー+親水/ヒートドドアミラー+フロントドア撥水ガラス」、もしくはその両方とセットでメーカーオプションとなります。  
 (ただし、「Honda・HDDナビゲーションシステム」または「インダッシュ6連奏CDチェンジャー」を「Hondaスマートカードキーシステム」と同時装着した場合を除く。)  
 ※7:インテリアカラーがブラックの場合はダークシルバー色となります。  
 ※8:[雨滴検知ワイパー]「親水/ヒートドドアミラー」「フロントドア撥水ガラス」はセットでメーカーオプションとなります。  
 ※9:[16インチアルミホイール]装着車は、205/55R16 89Vタイヤが装着され、ホイールサイズは16X6 1/2JJとなります。

■メーカーオプションは組み合わせによっては同時装着できない場合がございます。また他の複数のメーカーオプションとセット装着になる場合がございます。  
 ■仕様ならびに装備は予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。 ■タイプ、カラー、オプション等により納期が異なります。

主要諸元

車名・型式	1.7Q VTEC		2.0Q DOHC i-VTEC		
	タイプ	17X	17X 4WD	20X	20X 4WD
駆動方式	FF	4WD	FF	4WD	
エンジン	ホンダ・CBA-BE1	ホンダ・ABA-BE2	ホンダ・DBA-BE3	ホンダ・ABA-BE4	
トランスミッション	電子制御4速オートマチック			●	
	電子制御5速オートマチック		●		
寸法・重量・乗車定員	全長(m)	4.285			
	全幅(m)	1.795			
	全高(m)	1.610	1.635	1.610	1.635
	ホイールベース(m)	2.680			
	トレッド(m) 前/後	1.550/1.560	1.545/1.550	1.550/1.560	1.545/1.550
	最低地上高(m)	0.155			
	車両重量(kg)	1,360(1,370)	1,430(1,440)	1,440	1,480
	サイドエアバッグシステム+サイドカーテンエアバッグシステム装着車	1,370(1,380)	1,440(1,450)	1,440	1,490
	乗車定員(名)	6			
	客室内寸法(m) 長さ/幅/高さ	1.875/1.535/1.230			
エンジン	エンジン型式	D17A		K20A	
	エンジン種類・シリンダー数及び配置	水冷直列4気筒横置			
	弁機構	SOHC ベルト駆動 吸気2 排気2		DOHC チェーン駆動 吸気2 排気2	
	総排気量(cm³)	1,668		1,998	
	内径×行程(mm)	75.0×94.4		86.0×86.0	
	圧縮比	9.9		9.7	
	燃料供給装置形式	電子制御燃料噴射式(ホンダPGM-FI)			
	使用燃料種類	無鉛レギュラーガソリン			
	燃料タンク容量(Q)	58	50	58	50
	性能	最高出力(kW[PS]/rpm)*	96[130]/6,300		115[156]/6,500
最大トルク(N・m[kg・m]/rpm)*	155[15.8]/4,800		188[19.2]/4,000		
燃料消費率(km/Q)10・15モード走行(国土交通省審査値)	13.8★	13.2	13.0★	12.2	
主要燃費向上対策	可変バルブタイミング/ロックアップ機構付トルコン				
最小回転半径(m)	4.9(5.2)		5.2		
動力伝達・走行装置	変速比	1速 2.722		2.684	
	2速	1.516		1.500	
	3速	1.078		1.030	
	4速	0.711		0.772	
	5速	-		0.571	
	後退	1.954		2.000	
	減速比	4.357	前4.357 後2.533	4.562	前4.352 後2.533
	ステアリング装置形式	ラック・ピニオン式(パワーステアリング仕様)			
	タイヤ(前・後)	195/65R15 91H (205/55R16 89V)		205/55R16 89V	
	主ブレーキの種類・形式	前 油圧式ベンチレーテッドディスク		油圧式ディスク(ドラム駐車ブレーキ内蔵)	
サスペンション方式(前/後)	マクファーソン式/ダブルウィッシュボーン式				
スタビライザー形式	トーションバー式(前)		トーションバー式(前・後)	トーションバー式(前)	

(ノ)内はメーカーオプションの16インチアルミホイール装着車。  
 ■\*はネット値です。「ネット」とはエンジンを車両に搭載した状態とほぼ同条件で測定したものです。 ■新単位として、出力は「PS」から「kW」に、トルクは「kg・m」から「N・m」に切り替わっています。  
 ■燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時には、この条件(気象、道路、車両、運転、整備などの状況)が異なってくるため、それに伴って燃料消費率が異なります。  
 ★印の車両はグリーン税制(低燃費・低公害車の普及促進優遇税制)の対象となります。ご購入時に自動車取得税の軽減措置が受けられます(平成18年3月31日まで)。また、ご購入の翌年度の自動車税について軽減措置が受けられます(平成18年3月31日までの新車登録車を対象)。  
 ■主要諸元は道路運送車両法による型式指定申請書数値。 ■G-CON,INTER NAVI SYSTEM,PGM-FI,プロスマチック,VTECは本田技研工業株式会社の登録商標です。Edixは本田技研工業株式会社の商標です。 ■製造事業者:本田技研工業株式会社

